

22年度出生数100人割れ

合併後初 70人台に

少子化対策「市の正念場」

伊豆

伊豆市の2022年度の出生数が、初めて100人を切り、70人台にとどまる見通しであることが分かった。3月までの出生予定数を含めて76人で、前年度の107人
に比べ29%の減少となる。菊地豊市長は16日の定例会見で出生数に触れ「2年後に新
しい中学校ができるが状況はより厳しくなっている。ここからが本当に伊豆市の正念
場」と話した。



住民基本台帳のデー
タによると、修善寺、
中伊豆、天城湯ヶ島、
土肥の4町が合併して
同市が誕生した04年度
の出生数は217人。
翌05年度が最多の23
4人で、その後減少傾
向になった。19年度が
101人で、100人
割れが心配されたが、
20年度が125人、21
年度が107人と、1
00人台を維持してき
た。
06年度が175人で
前年度比26%減、09年
度が164人で前年度
比23%減だったが、本
年度はこれまででない
減少率となる見込み。

本年度の母子手帳発
行データに基づく月別
の出生数は7月と8月
が10人、9月が13人と
2桁を数えたが、4月
と5月は各6人、6月
5人、10月4人、11月
7人、12月4人。1
3月は出生見込みの人
数で、1月は11人、2
月は4人、3月は6人。
小学校を中心に統合
を進めてきた同市は、
25年度に修善寺、天城、
中伊豆中を統合して新
中学校を開校予定。各
学年五つの普通教室を
備える校舎の建設も始
まる。少子化が進めば
教育行政をはじめ多方
面に影響を及ぼすこと

から同市幹部は「全庁
挙げて、少子化対策を
考えていかなければな
らない」と話した。